

午後2時00分開会

○秋谷議長 ただいまから全員協議会を開会いたします。

それでは、本日の日程に入ります。本日は、区政の重要事項として、令和7年度予算案について執行機関から説明を受けるため、開催させていただきました。

なお、当協議会は公開とし、ライブ中継、映像配信を実施します。また、議事録も後日公開することとなりますので、よろしくお願いいたします。

本日の全員協議会に出席いただく理事者につきましては、昨年と同様、区長、副区長、教育長、条例部長及び財政課長とさせていただきますので、ご了承願います。

では、本日の進め方ですが、当初予算案の概況について執行機関から説明を受け、その後、基本的な質疑があれば受けるようにしたいと思います。このような進め方でよろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○秋谷議長 では、そのように進めさせていただきます。

初めに、樋口区長からご挨拶を頂きたいと思えます。

○樋口区長 本日は、大変お忙しい中、全員協議会を開催いただき、また、区議会議員の皆様方の貴重なお時間を頂戴いたしまして、誠にありがとうございます。ただいま議長からご案内いただきました、第1回定例会に提出を予定しております令和7年度千代田区各会計予算案につきましてご説明申し上げます。

令和7年度予算案は、予算編成方針に基づき、重点的に取り組む四つのテーマを定めて、編成いたしました。中でも、子ども・子育て支援策につきましては、令和6年度予算で取り組んだ様々な支援策をさらに進める事業予算を計上しております。予算規模は、一般会計が約753億円、全会計の合計が約894億円となり、予算案のキャッチコピーは「未来を拓き、暮らしの幸せや安心につなげる予算」といたしました。

特徴的な事業といたしましては、子育てにおける妊娠・出産期、乳幼児期、学齢期及びそれ以降の各ステージにおける経済的支援策を充実するため、出産一時金で不足する費用への上乗せ助成、中高生を養育するご家庭への中高生世代応援手当の新設、高齢者施策では、総合的な認知症対策として、予防のための補聴器購入費助成の拡充、進行を抑制するための軽度認知障害への独自プログラムなどを実施いたします。

安全安心なまちづくりとして、分譲マンションの耐震改修費用の補助率や限度額の引上げ、包括的なねずみ対策として、マンションごみ集積所の環境整備費の助成、「2050ゼロ・ウェイストちよだ」の実現に向けた、事業系生ごみ処理機設置補助制度の創設などにも取り組みます。

また、千代田区の存在意義を定着させるための職員の意識改革、新たな組織風土を構築するなど、職員一丸となって区政運営に取り組んでまいります。お力添えのほど、どうかよろしくお願いいたします。

予算案の概況、その他特筆すべき点につきましては、財政課長から説明いたします。よろしくお願いいたします。

○秋谷議長 ありがとうございました。

それでは、令和7年度当初予算案の概況について、執行機関から説明をお願いします。

○中根財政課長 はい。それでは、お手元に紙資料がございましたら紙資料で、データで

あればデータでご覧いただければと思います。その資料に基づきましてご説明申し上げます。主に、説明では、資料1の横判のカラー資料を主にご説明で使いまして、歳入歳出予算の内訳を説明するときには資料2の縦判の資料を使ってまいります。

まず、横判の資料1をご覧ください。データファイルですと、5ページになります。紙で4ページでございます。

令和7年度予算は、区長挨拶にもございましたとおり、子ども・子育て支援施策、高齢者施策、持続的に発展するまちづくり、そしてデジタル技術の活用という、四つのテーマを定めて編成しております。中でも、今年度、さらに大きくサービス拡充を図った子ども・子育て支援策につかまして、さらに取組を進める予算となっております。

続きまして、次のページでございます。各会計の予算規模でございます。一般会計は753億円余り、国保会計は65億余、介保会計51億余、後期高齢者医療会計は23億余で、全会計の合計は894億円余となっております。一般会計の規模は、昨年度と比較して約57億円、8.3%の増となっております。一般会計及び全会計合計ともに、当初予算として過去最大の予算となっております。

それでは、一般会計の款別内訳や主な増減につかまして、資料2の縦判の資料でご説明申し上げます。紙の資料ですと、1ページ、データファイルですと、2ページでございます。

まず、第1款歳入の大きな内訳、歳入の大きな柱となります特別区税のうち、特別区民税になります。こちらは207億5,000万円余を計上しております。これは、令和6年度の決算見込みを踏まえまして、対前年度比で11億7,000万余で、4.7%の減を見込んでおります。当初予算同士の対比では減額となりますが、令和5年度決算額と6年度決算見込み額を比較した場合は、6年度決算見込み額のほうが大きくなる見込みでございます。

続きまして、たばこ税です。29億余、対前年度比で8億8,000万円余、23.1%の減を見込んでおります。こちらも、令和6年度の決算見込み額を踏まえた額といたしております。

第4款利子割交付金です。1億5,000万円余を計上しております。市場金利の動向を踏まえまして――あ、すみません。第3款ですね。利子割交付金、すみません、第3款利子割交付金ですが、1億5,000万円余を計上いたしております。市場金融の動向を踏まえまして、対前年度比で8,000万円、114.3%の増を見込んでおります。

続きまして、第6款地方消費税交付金でございます。116億円を計上いたしております。本年度の決算見込みを踏まえまして、対前年度比で12億円、11.5%の増を見込んでおります。

続きまして、第10款特別区交付金です。51億円余を計上しております。対前年度比で5,000万円余り、1.1%の増で、ほぼ横ばいの額を見込んでおります。

続きまして、第14款国庫支出金です。61億円余を計上しております。児童手当等の増によりまして、対前年度比で14億円余り、30%増を見込んでおります。

続きまして、15款都支出金です。52億円余りを計上しております。保育所等の負担軽減事業の増によりまして、対前年度比で12億円余り、32%の増を見込んでおります。第17款寄附金です。16億円余を計上しております。いわゆるふるさと納税の増により

まして、対前年度比で16億円余の増を見込んでおります。

以上、歳入の特徴的な項目でございます。

続きまして、紙資料3ページ、4ページの歳出のところをご覧ください。こちらは一般会計の目的別の歳出でございます。こちら、右側のページの一覧表に基づきまして、特徴的なところをご説明申し上げます。

まず、第2款の子ども費になります。対前年度比で14億円余、7.8%の増となっております。こちら、児童手当が約7億円、中高生世代応援手当が約5億円の増となったことなどによるものでございます。

続きまして、第4款の地域振興費になります。対前年度比で――ごめんなさい、間違えました。地域振興費ですね。対、地域振興費17億円余の増で、26.6%の増でございます。こちら、ちよだアートスクエア改修整備費が約8億円、内幸町ホールの整備費が約5億円の増となったものでございます。

第5款が環境まちづくり費になります。環境まちづくり費は約104億円余でございます。前年度対比で約15億円、12.6%の減となっております。こちらは、橋梁の整備費ですとか電線類地中化の経費が減となったことなどによるものでございます。

続きまして、第6款総務費でございます。対前年度比で13億余、19.6%の増となっております。こちらは先ほど申し上げましたふるさと納税制度の活用で約7億円、そして、総合住民サービスシステムの運営などの2億円の増などによるものでございます。

目的別の歳出の特徴的な項目は以上でございます。次のページで歳出別を性質別にまとめたものとなっております。こちら、一覧表に基づきまして、特徴的なところをご説明申し上げます。

まず義務的経費でございますが、全体として20億円余り、9.3%の増となっております。構成比はそれほど変わっておりません。人件費につきまして5.4%の増という状況でございます。

続きまして、一般行政費ですが、こちら8.9%の増となっております。構成比自体はそれほど変わっておりません。投資的経費につきましては、対前年度比で伸びておりまして、19.5%の増となっております。その他の金額につきましては、ご覧いただければと思います。

続きまして、もう一度改めまして、紙の横判の資料の、カラー版の資料1に移らせていただきます。具体的な7年度予算における取組について申し上げます。紙ですと、4ページ、データファイルですと、5ページでございます。

四つの政策テーマごとに、ここに複数の事業、四つの政策テーマを下のほうに掲載しております。それぞれに複数の事業を紹介しております。そして、掲載した事業ごとに根拠データを基にした課題と解決策の方向性を記載するなど、EBPMを意識して予算編成に取り組んだことを反映したつくりとなっております。6ページから21ページまでが子ども・子育て、22ページから32ページが高齢者施策、33ページから52ページまでが持続的に発展するまちづくり、53ページから64ページまでがデジタル技術の活用となっております。そして、それらの事業の土台となる組織変革の推進が65ページに掲載いたしております。

申し上げますとおり、少々、事業のボリュームがございますので、中から幾つか取り

上げてご説明してまいります。

まず、9ページでございます。はい。紙で9ページ、データで10ページでございます。「子ども・子育て政策をさらに充実」ということで、6年度、横軸の成長のステージ別、そして縦軸に支援の分野別の表となっております。白抜きでは今年から取り組んでおるものを掲載しております。その上に赤枠での囲みで、7年度から新たに取り組むものをここに表記しております。

中から、今年の特に注力している事業が、経済的支援のところの、妊娠前から学齢期以降までの総合的な経済支援というところに特に重点を置いておりまして、その資料のところで改めてご説明いたします。紙資料17ページでございます。データですと、18ページであろうかと思えます。

「妊娠前から学齢期以降まで」ということで様々な取組をここに掲載しておりますが、中でも、改めてご説明いたします。③番の出産に係る費用助成につきましては、千代田区内での出産を、現状では一時金が5万円出ますが、それでは足りないという現状を踏まえまして、千代田区内で大体自己負担なくいけるであろう31万円を上限に、さらに補助をするものでございます。

続きまして、④番、中高生世代への手当支給でございます。こちらにつきましては、中高生の世代につきましては、小学生までと若干、生活にかかる経費、教育等にかかる経費に大きな差が出てくるという現状を踏まえまして、中高生1人当たり月額1万5,000円を給付するという事業を開始いたします。

続きまして、⑤番で、給付型奨学金です。こちらにつきましても、これまでは、昨年は教育ローンの利子補給等を実施しておりましたが、来年度は給付型の奨学金というものを新たに創設したいと思っております。

続きまして、⑦番、療育経費助成の上限額の引上げでございます。より支援が必要な子どもに対する療育経費の助成限度額を、現行1万円でございますが、2万円まで引き上げる、引き上げたいというふうに考えております。

子ども・子育て支援策のところ、ご説明は以上でございます。

続きまして、高齢者政策に参ります。高齢者政策は22ページからですが、紙資料ですと25ページのところの住まいの確保支援のところでご説明いたします。データファイルと26ページ以降になろうかと思えます。高齢者の方々の賃貸住宅への不安を解消したいという、その取組でございます。

高齢者の方々が賃貸住宅を借りるときに、どうしても自分の希望の条件ですとかということがなかなか不動産屋さんうまく伝え切れないというようなこともございまして、それに対して、居住支援法人という一つの法人のご協力を頂きまして、相談がスムーズにいくように、自分の希望条件とかが的確に伝えられるような、同行支援というのを開始したいと思っております。そして、反対側の、貸主の方への支援も取り組みたいと思っております。貸主への支援のところは、紙ファイル、27ページでございます。

貸主側からしますと、万が一のときに対する不安があって、なかなか踏み切れないという状況があるというふうに聞いております。ですので、そこに、大家さんに対して保険会社を通じて保険契約を結びまして、保険料を区が負担することで、その不安に対して解消していただいて、賃貸物件をできるだけ積極的に貸していただきたいという取組を来年度

実施したいというふうに思っております。

そして、高齢者政策からもう一つ、総合的な認知症対策でございます。紙資料ですと、29ページからとなっております。

国全体におきましても、千代田区全体、千代田区におきましても今後も認知症の患者さんが増えていくことであろうということが推測されております。そのため、それを考えまして、少し先取りのような形で、その対応策を実施したいというふうに思っております。

31ページのところでございますが、補聴器購入費助成を新たに始めたいと思っております。補聴器助成の拡充を考えております。今までの5万円の上限額を、課税世帯は7万2,000円程度、非課税世帯は14万4,000円程度まで引き上げます。おおむねこの金額であれば、自己負担なく購入費の補助が、補聴器は購入していただけるのではないかと考えております。それで、難聴が高齢者の認知症のリスクになっているというデータがありますので、補聴器をしていただくことで、周りの方との会話、積極的に自宅から外出する等の行動につなげていただければというふうに思っております。さらに、軽度の認知症の方につきましては、その状態であれば、取組を進めることによって進行を抑制したり、あるいは、もしかすると健常な状態に戻る可能性もあるということございまして、その取組を九段坂病院の先生と協力を頂きまして、独自のアウトプログラムを実施してまいりたいというふうに思っております。そして、2年間の実証実験の後、うまく効果が出た暁には9年度以降で地域実装ということを考えております。そして、どうしても、幾らかのような策を取っておきましてもどうしてもということに備えまして、8年度には錦町に認知症のグループホームというのを考えております。

高齢者政策につきましては以上です。

続きまして、持続的に発展するまちづくりでございます。

まず、持続的に発展するまちづくりにつきましては、紙資料の34ページ、35ページのところで、その中に四つの視点をまた設けております。その視点ごとに幾つか事業を抽出してご説明したいと思っております。

まず、41ページでございます。安全安心なまちづくりの中でということで、災害対策にこれまでと同様に力を入れた取組を一つやりたい、実施したいと思っております。ここにありますとおり、若年層へのやはり防災意識の啓発というところに少し取り組む必要があると考えておきまして、9月頃に、子育て世帯を中心とした、楽しみながら防災に触れる機会を提供する、防災フェスタというものを開催したいと思っております。内容につきましては、ここにありますとおり、このような内容を想定いたしております。

続きまして、43ページでございます。耐震改修補助の拡充でございます。今までも耐震改修には千代田区は先駆的に金額等を設けておりましたが、さらに、一般道路沿道についても、時限ではございますが、補助率、そして上限額を大幅に引き上げた形での取組を進めていきたいというふうに思っております。

次のページの、総合的なねずみ対策につきましてご説明申し上げます。区内でのねずみの相談件数は、ここにありますとおり、大きく伸びている状況でございます。その状況を踏まえまして、新たな取組を実施したいと思っております。

まずはマンションのねずみ対策ということで、マンションのごみ集積所がねずみの餌場となつてはいけないということに鑑みまして、そこで若干施設の修繕が必要であったり、

あるいは施設の修繕ではなくて、ここにありますとおり、ごみストッカーを購入して、ねずみの餌にならないようにしていただきたいという取組を考えております。補助率は10分の10で、限度額30万円でそういう取組ができるのではないかというふうに思っております。そして、併せまして、左側のさらなる強化のところで、なかなかハードルは高いかもしれませんが、やっぱり飲食店への指導というところも必要かと思っております。そのため、蓋付容器でごみを出すように指導していくとともに、条例化に向けた検討についても考えていきたいと思っております。なかなかハードルは高い取組で、条例化で全てが解決というわけではないかもしれませんが、そこに向けて検討も進めてまいりたいというふうに思っております。

続きまして、紙で51ページでございます。昨年から取り組んでおります、公園での花火利用やボール遊びなども今後も続けてまいりますが、併せて先駆的な公園整備に着手したいと思っております。公園の機能すみ分けということで、来年度はスケートボードパークやボルダリング施設の導入という、先駆的な公園整備に着手したいというふうに思っております。

そして、次のページのところで、親しみやすい外濠づくりということで、千代田区ならではのこの外濠という環境を区民の皆様方に改めて知っていただく、そして親しんでいただくということで、今取り組んでおる臭気対策等もちろん実施しますが、乗船見学会ですとか環境を学ぶワークショップ等も開催したいというふうに思っております。

持続的に発展するまちづくりは以上でございます。

続きまして、デジタル技術の活用が、紙資料で53ページ以降でございますが、ここでは三つご紹介いたします。

まず57ページの——ごめんなさい、55ページですね。紙資料ですと55ページ——ごめんなさい。55……。すみません、合っていました。57ページで合っていました。申し訳ございません。

オンライン手順の推進ということで、既に区民のポータルサイトについては開設して、順次、区民の皆様にご利用していただいておりますが、この手順を、需要が見込まれる手順から対象をどんどん拡大していくって、手順オンライン化の100%を目指した取組を進めてまいりたいということと併せまして、事業者向けのポータルサイトの構築にも着手したいというふうに思っております。

続きまして、59ページでございます。デジタル地域通貨等の活用検討ということで、まだ、実際の活用の事業予算ではございませんが、デジタル地域通貨を活用しまして、区内での地域経済の対策ですとか、あるいはコミュニティ活動や健康増進などの活動などにどんな活用ができるかということについて検討を深めてまいりたいというふうに思っております。

そして、続きまして62ページでございます。環境整備の促進のところで、生成AIの活用推進でございます。今、既に生成AIの活用につきましては一部実施しておりますが、来年度の後半以降におきましては、基本的にデスクワークをしている職員につきましてはこの生成AIは使える環境を整備しまして、生成AIで業務の効率化、あるいはサービスの向上ということを図っていきたいというふうに思っております。

そして、最後になります。紙資料65ページのところで、組織変革の推進ございま

す。

今まで申し上げましたような区民サービスの向上を図っていくために、組織変革を全体として取り組みたいと、職員の意識改革と組織風土改革というものに取り組んで、サービスの向上につなげてまいりたいというふうに思っております。

すみません、駆け足で、しどろもどろのところがありました、以上でございます。

○秋谷議長 ありがとうございます。

ただいま第1回定例会に提出予定の令和7年度当初予算案の概況についてご説明いただきました。当初予算案の内容については定例会中にしっかりと予算審議していただくことになりましたが、当初予算案について何かありますでしょうか。（発言する者あり）はい、そうです。

はやお議員。

○はやお議員 どうもありがとうございました。まず、この当初予算となりますと、全体的に何が相関してくるかという、大きい投資、設備投資になる、投資的経費のところになると思うんですね。で、その投資的経費、これは今皆さん持っていないから、この辺との相関を明らかにさせてくれということを使うつもりなんですけど、公共施設等総合管理計画というのが入っている、人口は一応、令和47年には8万7,000人になるという数字の中と、そしてまた、一番大切なのは投資的経費が令和6年から令和10年、この5年間で約440億かかるということになっている。だから、これを、投資的経費がこれだけかかるということが明確に分かっていて、その位置づけの今回の当初予算としてどういうふうに関係があるのか。その辺のところの方が分かりやすく、次回のあれまでに分かりやすくして。

それというのは何かというと、人員計画というのは、もう分かっていると思うんですけど、幾つだったかな、1,300のキャップをかけて、職員定数をやってきた。で、段階的に増やしてきた。けども、現実、何でこれだけお金がたまっていっちゃうかということ、マンパワーの問題があるんじゃないかという指摘は今までしてきたと思う。そうすると、採用計画だとか人の教育だとかというのがどういうことで、この、今、また千代田区として最大の予算規模になっているというのはいいいけれども、それを、数字でなくて実行していく組織になっているのかということが分かるように、次回までに説明していただきたい。採用計画がどうであって――結局は、この前のときには、もう既に終わりですよ、基本計画であるみらいプロジェクトで取り残した計画はないかといったら、500億、あとやっていますよと、はっきり言ったわけですよ。それで、公共施設の学校の1単価は60億ぐらいで計算していました。だけど、例えばお茶の水のいろいろ今あるやつは、100億ぐらいかかっている。となってきたときに、それを修正してなっているんだろうと思うんですけど、予算規模って、イコール、人ではないんですけども、人の手当てはどうなっているのか、そしてまた、民間開放の在り方でこういう設備を、例えばここについてはどこに任せて、場合によっては完全に民間に対応させるような方式にするとか、そういうところが分からないと、単年度の話だけをされても、これ、正しいねと、できないはずなんですよ。だから、例えば、こういうようなところについて、どういような民間開放の方式をやっていくかというこの整理が、縦、横、斜めのが分かるように、次回までに説明できるようにしていただきたいんですけど、いかがですか。（発言する者あり）えっ。は

い、いいよ。そうですかと聞いている。

○秋谷議長 はい。答えられる方。

○はやお議員 休憩を取れば。

○秋谷議長 休憩いたします。

午後2時29分休憩

午後2時29分再開

○秋谷議長 休憩前に引き続き、会議を再開いたします。

政策経営部長。

○村木政策経営部長 はい。ただいまはやお議員のほうから、投資的経費に係る問題、それから、今後のそういった施設の拡大とか事業の拡大に伴いますマンパワーの問題、また、民間開放等の指摘もございました。

今回の予算、こういった様々な要素を考慮した上で我々の方としても策定させていただいたものですので、こういった内容につきましても、予算審議の際にはご説明できるように準備していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○秋谷議長 はい。

ほかにございますでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○秋谷議長 はい。

ないようですので、以上をもちまして、本日の全員協議会を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。

午後2時30分閉会